

# 学校教育における災害経験の継承を支える条件

キーワード[教育経営, カリキュラム, 地域, 災害]

講師 吉田 尚史

災害=自然現象の加害力×社会の脆弱性

**【公教育の課題】**  
**自然現象への対応力**  
×  
**社会の脆弱性改善**

## 災害経験の継承をめぐる暫定的な整理

	広義	狭義
目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● 社会や人間のあり方を問い直す力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 災害から命を守るための知識・技術の伝達</li><li>● 発災時行動できる主体性</li></ul>
主な教材	<ul style="list-style-type: none"><li>● 災害による社会や人間の変化</li><li>● 災害によって表出した社会の脆弱性</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● ハザード発生メカニズム</li><li>● 備え・対応の方法</li></ul>
主な方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● 「最適解」の目指す学習</li><li>● 真理を探究する学習</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 価値や知識・技術の教授</li></ul>

### 内容:

災害は、社会の脆弱性が生み出される過程と自然の加害現象が作用する過程が交錯して発生します。

学校教育における災害経験の継承は、災害から命を守るための知識・技術の伝達を通した発災時に行動できる主体性の育成はもとより、災害によって表出した脆弱性と向き合いながら社会や人間の在り方を問い直すことができる人間の育成が求められるのではないだろうか。

このように公教育の課題を捉えた上で、福島第一原子力発電所事故により全町村避難を余儀なくされた**福島県双葉郡を対象に、地域社会と連関したカリキュラム改革**について研究をしています。具体的には、以下を調査対象にしています。

- 地域単位での教育の目標・内容・方法の基準の策定過程
- 被災地公立学校におけるカリキュラム編成過程
- 被災地公立学校で学習する児童生徒の経験

### アピールポイント:

「社会に開かれた教育課程」が求められる中で、地域社会からの要請をカリキュラムに反映するプロセスや条件、教員の専門性の解明は喫緊の課題です。

カリキュラムの内容だけでなく、それを支える制度的・組織的条件の解明を目指しています。

分野: 教育学

専門: 教育経営学

E-mail: nyoshida[at]e.yamagata-u.ac.jp

Tel: 023-628-4414

HP: <https://researchmap.jp/nyoshida>